



51号

題字 藤川学校
6年 鈴木 直人

岡崎市現職
教育委員会
特殊教育部会
平成16年
12月10日 発行



子供とのかかわりの中で

岡崎小学校長

野村正文

今日も校長室へやって来る五組の子供たち。職員室から校長室に入る扉に掛けてある日めくりをめくることが子供たちの仕事です。その時、五人の子供たち一人一人に握手をしながらあいさつをします。

いつも一番に校長室にやって来るのが三年生のK君です。

二年前の彼は、一通りあいさつをした後、必ずもう一度自分からあいさつを繰り返します。あいさつが終わると、応接セットの椅子の上に立ち、飛び跳ねます。それが済むと壁に掛かっている写真や絵を見て回ります。

他の友達のあいさつが終わるころを見計らって「失礼しました」と大きな声であいさつをし、教室に戻っていきます。

しかし、最近は、あいさつが終わっても私の横で全員のあいさつを終えるまで待っています。

私は、時々、一年生のT君にあいさつをしながら気持ちのつながりを付けようと、頬ずりをしたり、お腹をくすぐったりします。T君は、とても落ち着いた表情になります。すると、K君も頬ずりをやってもらいたいのか、顔を近付けてきます。T君と同じようにするときもありますが、三回に一回程は、

「K君は何年生。幼稚園か一年生ならやってあげるけどね。どうする。」と尋ねると、きっぱりと

「ぼくは、H先生。(協力学級の担任の先生)」と答えます。

K君はT君と同じようにしてもらいたいという気持ちを前面に出しながらも、自分の気持ちをコントロールすることができました。心の成長を強く感じます。

毎日、こうしたちょっとした言動の中からも、子供たちの成長を読み取ることが出来ます。そのひと言を、ひとつの活動を、大切に見守っていきたいものです。

岡崎ライオンズクラブ

社会見学会

毎年、子供たちが楽しみにしているこの行事は、市内の特殊学級の子供たちを励まそうと、昭和四十年から岡崎ライオンズクラブの主催で始まりました。そして、昭和四十五年以降、社会見学をメインにした会となり、毎年一回実施されてきました。

今年度は四十回目を迎え、名古屋港水族館の見学をすることができました。子供たちは大きなシャチを間近で見たり、イルカのジャンプに拍手を送ったりしながら、他校の子と一緒に楽しい思い出を作ることができました。

岡崎ライオンズクラブの皆様には、四十年の長きにわたり、子供たちを支援していただいています。本当にありがとうございます。



「イルカショーを見たよ」 矢北小 6年 都築 拓

ライオンズのおじさんへ

今年も社会見学につれていってくれて、ありがとうございました。

ぼくは、水族館でペンギンとカメとベルーガとイルカとシャチを見ました。イルカショーのイルカのジャンプが、すごくよかったです。六メートルもイルカがとぶなんてすごいです。六ひきのイルカがそろってジャンプしたのもすごかったです。シャチのクーちゃんのとトレーニングは、すごく迫力がありました。クーちゃんのジャンプの高さもすごかったです。大きなクーちゃんがあんなに高くとべるなんて、びっくりしました。

六年間、ありがとうございました。

社会見学の思い出

六ツ美北部小 六年 小宮 里菜
みんなのまえで、おれいのはをいいました。ドキドキしました。

「ライオンズクラブさん いつもありがとうございます。」

と、いいました。じょうずに、できました。

イルカのショーを見ました。たかくとんで、びっくりしました。シャチのクーちゃんも、ボールのジャンプをやりました。

おべんとうは、こんどうよしたか先生とたべました。りなは、えびフライをもらいました。おいしいな。バスの中でおかしをたべました。おいしいな。たのしい社会見学でした。



「ライオンズクラブさん ありがとうございます」



「花火バス」 上地小 3年 畔柳 麗市

イルカのジャンプ

上地小 四年 太田 有哉

ぼくたちは、バスでなごやこう水ぞくかんへ行きました。水ぞくかんについたら、イルカショーのところへ、べんとうをたべました。すごくおいしかったです。それから、みんなで、ぼくの大好きなカメとペンギンを見に行きました。りょうほうともたくさんいました。とてもかわいかったです。それから、イルカショーを見ました。イルカがジャンプをしました。なんかいもジャンプをしました。シャチのクーもジャンプをしました。水が、パシャンとなりました。それから、バスにのつてかえりました。とてもたのしかったです。

矢作・矢北ブロック 七月二十八日

矢作中 奥脇 弓子

クラスみんなで竹を割って節を削りました。子供たちはしたたる汗をふきもせずがんばりました。上手にそうめんが流れるか、どきどきして竹を四本つなげました。当日、するすると流れるそうめんを前に、子供たちは目を輝かせ、一生懸命にそうめんをすくっていました。保護者の笑顔も光る、格別おいしいそうめんでした。

その後、各学校で考えたゲームを全員で楽しみました。前半と後半でゲームをする人とさせる人が交代し、全員が楽しみました。参加者みんなで作り上げた交流会でした。

北ブロック 八月二十三日

大門小 中島 春美

「皆さんとゆっくりお話がしたいな。」という保護者の要望をお聞きして、今年は、バーベキュー交流に決定しました。

準備の段階から子供たちと一緒に今回の計画。集合場所であいさつが済むと、さっそく子供たちと食材の買い出しに出発です。材料を切るのも子供たちの仕事。包丁を持つ危なっかしい手つきにはらはらでしたが、「なすはぼくがきるよ」、「指をまるく」、「やった」。自分で切れたね。」と自分の出来はえに満足そうです。

時間もたっぷり、話もできて好評でした。



子どもと親の集い ブロック交流会



東海ブロック 九月八日

東海中 橋本 直司

子供たちの笑顔、はしゃぎ回る元気な姿が何よりもうれしい。そんな思いを私たち教師はもちろん、保護者の方も持たれたのではないのでしょうか。中学生が小学生を相手に、お兄さんお姉さんぶりを得意になって発揮しました。ゲームを楽しんだり、苦勞しながらも、歓声をあげながら流しそうめんを味わったりしました。会のはじめはすみにいた子が、いつの間にか輪の中にいました。交流会は会を重ねることに、子供たちの心の垣根をなくしていくようです。

竜海ブロック 十月一日

三島小 大柿 峰樹

竜海中学校の体育館を会場に、新聞紙玉入れや大玉転がし、自己紹介ゲームやじゃんけん列車を行いました。今年は新しい試みとして、フレンドパークゲームを取り入れました。竜海中の生徒たちが、吹き矢・ダーツ・当たり屋・輪投げを企画し、ゲームの道具を作ったり、説明ビデオを作ったりしてくれました。

当日は、中学生が運営する四つのゲームコーナーを小学生が保護者と一緒に回りました。ゲームをして、景品をもらって、楽しいひとときを過ごしました。

映画鑑賞会

ハリー・ポッターを鑑賞して

甲山中 犬塚 学

ツツイエンターテイメントコーポレーション様のご厚意による映画鑑賞会に、甲山中学校十組も、七月七日に参加させていただきました。本年度は、「ハリー・ポッター」を鑑賞できるということで、生徒たちは何日も前からこの鑑賞会を大変楽しみにしていました。映画館では、上映時間までの少しの間、生徒からは「どんなお話だろう」「楽しみだね」といった映画への期待の声が盛んに聞かれました。映画は期待通り、とても楽しい内容で、鑑賞後の生徒たちの様子は、映画の一場面のまねをしてみたり、感想を得意げに話してくれたり、興奮覚めやらない様子でした。

生徒たちにとつて夏休み前のとても思い出深い経験になったと思います。



「ハリー・ポッター」
甲山中 2年 富田 知鶴

学級紹介

はじめまして 三組・四組です

矢作西小 岡田 幸夫

矢作西小学校の三組（知的障害学級）と四組（情緒障害学級）は本年度同時に新設されました。在籍人数は、三組が三人、四組が二人の計五人です。みんな明るく元気があり、とても楽しい学級です。



さつまいものためしぼり

矢作西小学校は、学校全体で緑を育てたり、緑に親しんだりしています。三組・四組のみんなも矢作農園で、サツマイモを育てています。この前たけし掘りをしたら、とても大きなサツマイモが出てきて、ゆでて先生に食べてもらったり、自分たちで食べたりしました。みんな大喜びでした。

このように、子供たちが十分に活動できる場面を工夫したり、お互いの良い点を認め合ったりしながら毎日、楽しい学校生活を送っています。

研究会だより

三河教育研究会での発表を終えて

東海中 森 雄一郎

「生きて働く力を育てる教育のあり方を求めて」とのタイトルのもと三教研夏期研修会が八月三日、刈谷市産業振興センターにおいて開催されました。

研修会は七つの分科会で、午前・午後の二回に渡り、それぞれ熱心な討論がなされました。私は第三分科会「就学・教育相談」にて発表の機会をいただき、個別の指導計画の作成・中学校の進路指導・日々の授業展開・校内支援体制等について様々な意見・ご助言をいただくことができました。

午後の部では、学習障害児・者の会「かたつむり」代表・多久島睦美さんが『保護者から学校に理解してほしいこと』と題して講演をされ、一層有意義な研修会となりました。

全国大会に参加して

竜海中 武田 正道

十月二十七日から二十九日まで、特別支援教育研究連盟全国大会（広島大会）に、初日から矢北小の澤田先生、一日目から東海中の森先生とともに参加しました。来年度は愛知県大会で、「就学・教育相談」分科会において岡崎が提案をする予定です。その分科会で、全国的な協議課題の中心がどこにあるのかを調査研究してきました。協議内容は、地域や学校の実情に合わせた特別支援教育体制と教育相談の在り方についてでした。

また、連盟理事長小出先生の基調報告が印象に残りました。大会主題「広く論じ合おう、支援とまごころの教育を」を引用し、教育現場の支援体制や制度整備の急が叫ばれています。要は「真心の支え」を忘れないことを強調されるお話でした。